

2008年東北海区の海況の特徴

伊藤進一・笥茂穂・清水勇吾・奥田邦明（東北水研）

関係各機関及び東北区水産研究所の海洋観測結果を用いて作成した月毎の100m, 200m深等の水温分布図、並びに NOAA 衛星の熱赤外面像、Jason-1・ENVISAT 衛星による海面高度観測結果に基づき、2008年の海況の経過を表1に示し、海況の経過の特徴を以下に述べる。

会議発表時では、11月および12月の一部データが未収集であるため暫定値として発表した、その後補充されたデータも加えた結果を示す。

1. 2008年の海況の経過（1～12月まで）

表面水温

(1) 北海道・東北沿岸では6月までは低めで推移し、7月に平年並となった。8～11月は高めで推移したが、特に9月は海域全体が顕著に高温であった。12月は再び平年並となった。

黒潮域

(1) 房総沖での黒潮離接岸は、4月までは平年並であったが、5～6月には接岸となった。7月以降は、9月の離岸を除き平年並で推移した。

(2) 近海の黒潮の北限位置は、2月の平年並、9月のやや北偏を除いては、極めて南偏～やや南偏で推移した。

混合域

○黒潮系暖水

(1) 近海の北限位置は6月までは南偏で推移し、7～10月には平年並となったが、11月以降再び南偏となった。沖合の北限位置は概ね平年並で推移した。

○暖水塊

2006年9月に釧路南東沖で確認された2006Eが、5月まで同海域に停滞していた。2007年5月に常磐沖で確認された2007Bは、2008年1月には三陸沖にあったが、7月以降11月まで徐々に北上

した。1月には鹿島灘沖に2008Aが認められたが、2月には黒潮続流域に吸収された。5～7月には三陸沖に2008Bが停滞した。6月に常磐沖に認められた2008Cは7～10月にかけて西進した。

○その他

(1) 冷水域が、三陸～常磐近海にかけて存在した。

親潮域

○親潮第1分枝

(1) 親潮第1分枝は、1～4月は平年並で推移した。5～11月はやや北偏～北偏で推移したが、12月にはやや南偏に転じた。

(2) 第1分枝に連なる冷水が、4月および9～12月に存在した。

○親潮第2分枝

(1) 親潮第2分枝の先端緯度は、1～2月、5月、8月、10～11月は平年並であり、6～7月は北偏、9月はかなり南偏で推移した。なお、3、4、12月は不明であった。

(2) 第2分枝に連なる冷水が、2、5、6、8、10月に分布した。

津軽暖流域

下北半島東方での張り出しは、5月までは平年並～やや弱勢で推移したが、6月に弱勢となった。7～9月はやや強勢～強勢で推移し、10～11月に平年並となったものの12月に再び強勢となった。

2008年における海況の特徴

(1) 表面水温が低めから高めに転じた。

(2) 近海黒潮の北限位置の南偏傾向が継続した。

(3) 前々年および前年から持続していた暖水塊が1つつ存在し、新たに暖水塊が3つ発生した。

(4) 親潮第1分枝は北偏傾向であった。

(5) 津軽暖流の下北半島東方への張り出しが強勢傾向であった。